

やり残し

2023. 10. 15

この前、ある人と話した。以前、同じ職場でお世話になった方である。その方は、ご家庭の都合もあり、60歳定年前にご退職された。もし、可能であれば、野田中学校の非常勤講師をお願いできないかと思い連絡を試みた。

久しぶりだったので、いろいろな話をした。その中で、「やり残し」という言葉が出てきた。そうか、退職をし、仕事を離れると、そのような考えになるのか。それから、妙にこの言葉が頭に残るようになった。

時間ができたら、やりたいことはある。だが、やり残しとは少し違う。やり残しとは、今までやろうとしていたが、やることができなかつたことだろう。あるいは、やってみたものの、うまくいかなかつたことだろうか。

これからの残された時間で、すべてのことができるわけではない。やれることは、ある程度限られてくるだろう。その方は、大学に通っているとのことだった。わかるような気がする。学びたいという気持ちを理解できる自分がある。もっと学べばよかつたという後悔もある。若いときは、あまりにも物事を知らなすぎた。無知そのものだった。

学びたい以外では、見たいという気持ちが強い。すなわち、旅に出たい。自分の国、日本ですらまだまだ見ていない。京都には、1か月はいたい。東京にも長期にわたつて滞在したい。ヨーロッパにも行きたい。そのためには、予習が必要である。知識がないと、同じものを見ても味わい方が変わつてきてしまう。結局は学びである。知りたいという欲求は大事である。

その方は、音楽が専門なので、演奏会にも行つているとのことだった。うらやましい。人生が豊かになる。音楽でも、美術でも、スポーツ観戦でも、料理でも何でもいいから、好きなこと、夢中になれることがほしい。これは、だいぶ前からの願望である。それが、相変わらず見つからない。とりあえず、いろいろやってみるか。そのうち、自分にヒットするものが出てくるかもしれない。

非常勤講師の件は、断られた。それはそうである。やり残していることができなくなつてしまう。やりたいことができないことよりも、やり残しがあるという思いのほうが、嫌な気がする。やり残しというのは、それだけ思いが強いということだろう。そう考えると、その方よりも私の思いは弱いと思う。こんなことをやってみたいという考えはあるが、やり残しと言えるほどのものなのか。

その方には、まもなく本校に来てもらう。10月21日（土）である。校内合唱コンクールの審査員としてである。審査後の講評では、生徒の前でどんな話をしてくれるだろう。学校を離れている方だからこそ、余計に楽しみである。

もうしばらく、やり残しについては、考えていきたい。自分でも、やり残しと思えるような強い思いが出てくることを期待している。